

## PBL -12 バナ・テキスタイル入門 - 素材研究

担当教員 柏木 弘

配当年次 全学年

単位区分 自由

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 1.0

準備事項

備考 定員40名 コンピュータ抽選

### 【授業のねらい】

1. バナナ・テキスタイル・プロジェクトを理解するための演習を行う基本講座。2. バナナ繊維を中心に未利用繊維の素材開発の方法について学ぶ。実際にバナナの本木より繊維の抽出方法を体験する。繊維の開織、紡績または伝統的な糸継ぎ・糸撚りによる糸作りを経て布になる工程を理解する。さらに不織布、ボード加工などへ展開する。3. 実習と専門家によるレクチャーを通して環境問題とデザインに関する考えを深めていく。原料素材とその背景、文化・環境の関係についてバナナ繊維を通してみていく。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：バナナ・テキスタイル・プロジェクトについて、授業の進め方説明
2	講義：バナナ繊維について
3	素材研究1：バナナ繊維の抽出
4	素材研究2：バナナ繊維を結ぶ
5	素材研究3：バナナ繊維を撚る
6	素材研究4：バナナ繊維を編む
7	素材研究5：バナナ繊維を編む
8	特別講義：未利用資源の活用とサステナビリティ
9	素材研究6：バナナ繊維の開織加工とボード制作
10	素材研究7：バナナパルプ制作
11	素材研究8：紙漉
12	素材研究9：紙漉
13	素材研究10：織物制作
14	素材研究11：新たな表層制作に向けてプランニング
15	プレゼンテーション：素材研究発表

### 【履修上の注意事項】

環境問題とデザインとの関わりについて意欲的に学ぶ学生の参加を望みます。

### 【評価方法】

出席回数50点、プレゼンテーション内容30点、授業への参加姿勢20点を総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献】

随時配布、または研究室で閲覧できるようにする。

## PBL -36 ハナ・テキスタイル - 紙からの造形

担当教員 柏木 弘

配当年次 1年・2年・3年・4年

単位区分 自由

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 1.0

準備事項

備考 ハナテキスタイル入門-素材研究を今年度前期または昨年度までに履修した学生に限る

### 【授業のねらい】

バナナ繊維およびその他の未利用繊維資源を利用して紙の材料をつくることを学ぶ。さらに、その材料による紙をつかって学生各自の専門領域の制作姿勢による作品を構想し実現させる。未利用繊維による紙をどのように独自の制作に取り入れることができるかを考察し、造形の可能性を追求することを目標とする。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	講義 未利用繊維資源による紙作りについて
3	紙の材料制作 1 バナナ繊維をパルプ化する
4	紙の材料制作 2 バナナ繊維をパルプ化する
5	講義 紙漉について
6	紙漉演習 1 バナナパルプで紙を漉く
7	紙漉演習 2 バナナパルプで紙を漉く
8	作品制作 構想 1 各自の専門分野と結びつけた作品を構想する
9	作品制作 構想 2 各自の専門分野と結びつけた作品を構想する
10	作品制作 構想 3 各自の専門分野と結びつけた作品を構想する
11	構想実現 1 構想した作品を制作する
12	構想実現 2 構想した作品を制作する
13	構想実現 3 構想した作品を制作する
14	プレゼンテーション 1 成果発表
15	プレゼンテーション 2 成果発表

### 【履修上の注意事項】

デザイン系、アート系は問わないが、紙造りをベースにした作品制作及び未利用資源の有効活用に関心のある学生に履修していただきたい。

### 【評価方法】

出席回数 50点、プレゼンテーション内容 30点、授業への参加姿勢 20点を総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献】

随時配布、または研究室で閲覧できるようにする。

PBL -37 パナ・テキスタイル - 素材と制作技術

担当教員 辛島 綾

配当年次 2年・3年・4年

単位区分 自由

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 1.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

バナナ・テキスタイル・プロジェクト及び地球環境問題を踏まえ、未利用繊維であるバナナ繊維の利用価値を考える。実際に原木から触ることで、素材から始まるものづくりを体で感じ、染織技法を中心とした作品制作に展開する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 授業概要とバナナ・テキスタイル・プロジェクトについての概説
2	バナナ繊維抽出実習 原木から繊維を抽出する
3	繊維を染める 天然染料について / バナナ繊維を染める
4	繊維から糸を作る 糸作りについて / 結ぶ、紡ぐなどの方法で繊維から糸を作る
5	糸から布へ フレームを使用した織物を体験する
6	グループ分け 課題説明・テーマのアイデア出し・グループ分
7	作品プランニング 前半の素材研究を踏まえ、作品の構想を立て
8	作品プランニング 作品構想のプレゼンテーション
9	作品制作 作品制作
10	作品制作 作品制作
11	作品制作 作品制作
12	作品制作 作品制作
13	作品制作 作品制作
14	作品制作 作品制作
15	講評会 / まとめ 作品講評会とまとめ

【履修上の注意事項】

環境問題とデザインの関わりについて意欲的に学ぶ学生の参加を望みます。技術プロセスを習得しステップアップしていく実習授業の為、高い出席率が要求されます。全学共通科目であるため、他学科の学生が1つグループとしての課題に向き合うことで、それぞれの考え方、特徴を引き立て合う場になることを期待します

【評価方法】

1. 課題作品内容 プレゼンテーション（環境問題とデザインの関わりの考察）40点  
作品（素材を生かすものづくり）40点とする。
2. 学習意欲、出席率を上記採点に加味（配点20点）し、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリント資料を配布する。

【参考文献】

随時配布、または研究室で閲覧できるようにする。

## PBL -38 サステナブルデザイン演習

担当教員 浅野 泰弘

配当年次 1年・2年・3年・4年

単位区分 自由

開講時期 前期

授業形態 演習・講義

単位数 1.0

準備事項

備考 定員40名 コンピュータ抽選

## 【授業のねらい】

地球環境とこれからのデザインについて考える。環境とものづくりの関係、サステナブルの考え方。様々な気付きやアウトプットの機会を与え、それぞれの考えを言語化し発表できるようにする。この講座を終えた後、学生がそれぞれの専門分野で制作活動を行う際の、発想の基準のようなものを提供できる授業。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション講師自己紹介など 講師のこれからのデザインとは何かの考え方について。
2	記憶模写/世界地図/地球家族(世界の住空間) 記憶模写/世界地図提出
3	世界地図(作品課題1) 宇宙から見ると、地球は一つのシステムです。
4	プロダクトデザインとエコロジー-1 プロダクトデザインとエコロジーの考え方。
5	プロダクトデザインとエコロジー-2(作品課題2) 紙、繊維、素材研究。紙の折りによる製作。
6	地球環境とデザイン 江戸のサイケ事情調査/1 江戸時代研究。本来、日本はカーボンニュートラルな国だった。
7	地球環境とデザイン 江戸のサイケ事情調査/2江戸時代に自然におこなわれていた生活。
8	バックミンスター・フーの考え方/1 (45年前に宇宙船地球号の思想) イームズについて パワーオブテン他
9	バックミンスター・フーの考え方/2(最小のエネルギーで最大の効果を上げる方法)
10	パバネック的思想(生きのびるためのデザイン)(地産地消の考え方)(作品課題3)
11	サステイナブルデザインアイデア/1 環境とデザインが密接にかかわっている。素材を知ることの重要性。
12	サステイナブルデザインアイデア/2 巨大な尺度や微細な物差しがこれからのデザインには必要。
13	作品制作アドバイス
14	作品制作アドバイス
15	最終プレゼン/講評会(作品課題4)

## 【履修上の注意事項】

サステナブルデザインに興味があり、自ら積極的に参加する意欲をもって臨んでほしい。

## 【評価方法】

『デザインする』ということは単に美しいデザインを製作することではない。新しくきれいなものがデザインであるという一般的なイメージの間違いを指摘し、環境問題に対してのデザインの新しい方向性を評価する。出席と課題提出。

## 【テキスト】

特になし

## 【参考文献】

授業の中で随時指示する。

PBL -39日常でいのちの意味を問うプロジェクト

担当教員 松澤 穰 京野 弘一

配当年次 1年・2年・3年・4年

単位区分 自由

開講時期 前期

授業形態 実技・演習

単位数 1.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会における自らの存在意義への問いが、モノでも金でも名誉でもない文字通りのかけがえのない人道支援という行為に繋がっているといえるだろう。美術大学だからこそできる大切なことの一つとして、資本主義のゲームに乗らない人道支援というジャンル。これに対して、アーティスト・デザイナーとして、トコトン考え抜き、答えを出していきたい。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス(全科オープン週)プロジェクト説明・スケジュール確認
2	オリエンテーション(全科オープン週)クライアントによるオリエンテーション
3	ブレインストーミング・ケースディ1 様々な視点からディスカッションをし問題点を共有する
4	ブレインストーミング・ケースディ2 様々な視点からディスカッションをし問題点を共有する
5	アイデア提案 アイデア発表・クリティック・ディスカッション
6	エスキスミーティング1 デザイン案を基にラフ(ダミー・モックアップ)制作・ミーティング
7	エスキスミーティング2 デザイン案を基にラフ(ダミー・モックアップ)制作・ミーティング
8	中間発表 学内選考 チーム分け デザイン案を基にラフ制作・ミーティング
9	チームミーティング1 クライアントに企画発表・学内選考・チーム分け
10	ゲストによるレクチャー テーマについて・プレゼンテーションについて
11	チームミーティング2 デザイン案を基にラフ制作を製作・チームミーティング
12	チームミーティング3 デザイン案を基にラフ制作を製作・チームミーティング
13	プレ・プレゼンテーション 提出物と口述のチェック
14	提出物のブラッシュアップ トータルデザインと口述のチェック
15	プレゼンテーション(全科オープン週)最終成果物のプレゼンテーション

【履修上の注意事項】

学外のクライアントへの提案なので、真摯な姿勢と先方に失礼の無きよう社会的マナーはもちろん、実施に移行後のプロセスにおいても責任ある行動を全うする覚悟のある人のみが履修を許される。創作行為は決して独りよがりであってはならない。また、個人製作の多い各科独自のカリキュラムとの差別化を図るためにも、「皆が思うこと」というささやかな思考の共振への繊細な感受性を養うためにもアート&デザインプロセスにおける組織的な振る舞い方を体得するためにも、原則少人数のチームによる取組とする。

【評価方法】

出席率30% 授業態度30% 成果物40%

【テキスト】

特になし

【参考文献】

授業内で提示

## PBL 40FisslerJapan の新たなターゲット開拓

担当教員 松澤 穰 京野 弘一

配当年次 1年・2年・3年・4年

単位区分 自由

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 1.0

準備事項

備考

**【授業のねらい】**

先進的なドイツの鍋メーカーであるFissler社の商品やショップの見せ方・売り方のヴィジュアルプレゼンテーションを行なうプロジェクト。

POPからリーフレット・パッケージ・ディスプレイ・什器・ショーウィンドウ、季節やテーマに合わせた店頭プロモーションまで、幅広い、戦略的で斬新なアイデアを期待されている。採択された提案は直ちに全国の既存の売り場や新規店舗にて実施される予定である。

**【授業の展開計画】**

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス(全学オープン) プロジェクト説明/過去のPBLによる事例紹介/スケジュール確認
2	オリエンテーション クライアントによるオリエンテーション/担当者とのディスカッション
3	ブレインストーミング 市場調査を踏まえ、様々な視点からディスカッションをし、問題点を共有
4	企画提案 - 1 テーマ・コンセプト発表/ディスカッション
5	企画提案 - 2 アイデア発表/クリティック/ディスカッション
6	企画提案 - 3 デザイン発表/モックアップ制作/ミーティング
7	中間発表 クライアントに企画発表/学内選考/チーム分け
8	チームミーティング - 1 チームにてデザイン発表/ディスカッション/チームミーティング
9	チームミーティング - 2 モックアップ制作/チームミーティング
10	チームミーティング - 3 モックアップ制作/チームミーティング
11	チームミーティング - 4 モックアップ制作/チームミーティング
12	プレ・プレゼンテーション デザイン・表現のチェック
13	提出物のブラッシュアップ 最終成果物のデザイン・プレゼンテーションをトータルでチェック
14	最終プレゼンテーション クライアントに向けプレゼンテーション/冊子に編集
15	

**【履修上の注意事項】**

アイデアが即、実施に繋がるプロジェクトにつき、依頼主に失礼無きよう、礼儀と意欲と責任感のある学生を求めます。

責任感とは自らの履修の意思確認を行い、プロジェクトを全うする事であり、採択された提案者は、授業終了後にも実物制作、現場作業にも関わることが条件です。少人数のチームをベースに行います。チーム内でのコミュニケーション・役割分担等々、デザインプロセスにおける組織としての振る舞い方も学びの一つ。

**【評価方法】**

出席率50% 授業態度20% 成果物30%

**【テキスト】**

**【参考文献】**

授業内で提示

## PBL -41 ARTSAT：衛星芸術 制作&パフォーマンス

担当教員 久保田 晃弘 緒方 壽人

配当年次 1年・2年・3年・4年

単位区分 自由

開講時期 後期

授業形態 実技・演習

単位数 1.0

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

- ・メディアとしての超小型衛星の現状を知り、衛星からのデータや電波を活用した衛星芸術作品の制作やパフォーマンスを行う。
- ・平成25年度に打ち上げ予定の芸術衛星(INVADER)を用いたARTSAT(衛星芸術)プロジェクトに参加する。
- ・エンジニアや科学者との共同作業を通じて、学際的な異分野コラボレーションのためのスキルや経験を身につける。

### 【授業の展開計画】

1. オリエンテーション：超小型衛星と衛星芸術
2. 衛星芸術入門(1)：超小型衛星とは何か?
3. 衛星芸術入門(2)：超小型衛星のしくみ
4. 衛星芸術入門(3)：衛星とのコミュニケーション
5. 衛星芸術入門(4)：衛星からのデータの活用
6. 衛星芸術入門(5)：衛星のかたち
7. 衛星芸術演習(1)：衛星のセンサーデータ
8. 衛星芸術演習(2)：衛星APIの使い方
9. 衛星芸術演習(3)：衛星音楽
10. 衛星芸術演習(4)：衛星家具
11. 衛星芸術演習(5)：ミッションOBC(Arduino)の使い方
12. 衛星芸術演習(6)：衛星プログラミング
13. 衛星芸術制作(1)：作品制作(1)
14. 衛星芸術制作(2)：作品制作(2)
15. 最終発表会：プレゼンテーションと講評

### 【履修上の注意事項】

- ・クラフト/グラフィックス/メカニクス/電子デバイス/プログラミングのいずれかのスキルを有すること。
- ・授業開始前や授業時間外にも超小型衛星に関連したレクチャーや学外授業、イベントやパフォーマンスなどを行うことがある。

### 【評価方法】

- ・100点中、出席40点、意欲30点、制作30点

### 【テキスト】

<http://artsat.jp> (衛星芸術公式ウェブページ)

### 【参考文献】

「人工衛星をつくる-設計から打ち上げまで-」宮崎 康行 (オーム社) 「人工衛星の“なぜ”を科学する だれもが抱く素朴な疑問にズバリ答える!」NEC「人工衛星」プロジェクトチーム (アーク出版)

## PBL -42 放射線を測る・知る・デザインする

担当教員 久保田 晃弘 緒方 壽人

配当年次 1年・2年・3年・4年

単位区分 自由

開講時期 前期

授業形態 実技・演習

単位数 1.0

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

- ・東京電力の福島第一原発事故後の、放射線と共に暮らしていかなければならない社会に必要な放射線に関するリテラシーを学ぶ。
- ・DIYパーソナル計測器の制作演習を通じて、ユーザーインターフェイスやインフォグラフィックスの基礎を学ぶ。
- ・放射線のある暮らしにおける、市民ひとりひとりが実践するデザインの役割や意味を考える。

### 【授業の展開計画】

1. オリエンテーション：放射線の基礎知識
2. 放射線と環境：放射線マップの現在
3. 放射線と人体：内部被爆と外部被爆
4. 放射線測定実習(1)：放射線の計測方法
5. 放射線測定実習(2)：放射線の測定体験
6. 放射線計測器の制作(1)：電子工作入門
7. 放射線計測器の制作(2)：DIYパーソナル線量計の制作
8. 放射線計測器の制作(3)：DIYパーソナル線量計のテスト
9. 放射線計測器の制作(4)：DIYパーソナル線量計の使用
10. 測定結果のデザイン(1)：ユーザー・インターフェイスとインフォグラフィックス
11. 測定結果のデザイン(2)：ソーシャル・ネットワークの活用
12. 暮らしの中の放射線(1)：総合課題(ブレインストーミング)
13. 暮らしの中の放射線(2)：総合課題(アイデア・ディベロップメント)
14. 暮らしの中の放射線(3)：総合課題(プロトタイピング)
15. 最終発表会：プレゼンテーションと講評

### 【履修上の注意事項】

- ・放射線問題に関する専門家のレクチャーや見学などの課外活動も行う。
- ・放射線計測器の制作の際に簡単な電子工作を行う(制作にかかる実費は学生が負担する)。

### 【評価方法】

- ・100点中、出席40点、意欲30点、制作30点

### 【テキスト】

### 【参考文献】

<http://www.radiation-watch.org/>



## PBL -43Fabschool Tamabi デジタル×ソーシャル

担当教員 山辺 真幸 久保田 晃弘

配当年次 1年・2年・3年・4年

単位区分 自由

開講時期 後期

授業形態 実技・演習

単位数 1.0

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

さまざまなカッティングマシンや3Dプリンタなど、近年急速に身近になったデジタル・ファブリケーション技術を通して見えてくる「未来のものづくり」について、手を動かしながら思考を巡らす、ハンズオン型の演習授業を行う。

各自の制作物のみならず、そこに至る「発見」や「アイデア」を皆でシェアし、それを発展継承させる「オープンコミュニティ」によるものづくりの方法を紹介し、その考え方を授業の中で積極的に実践する。

### 【授業の展開計画】

1. オリエンテーション：デジタル×ソーシャル×オープンの可能性
2. デジタル・ファブリケーション(1)：クラフトロボ実習(1)
3. デジタル・ファブリケーション(2)：クラフトロボ実習(2)
4. ソーシャル・マテリアル(1)：社会の共有物としての素材
5. ソーシャル・マテリアル(2)：マテリアル体験
6. オープン・デザイン(1)：クリエイティブ・コモンズとは何か
7. オープン・デザイン(2)：ソーシャル・デザインの事例
8. デジタル・ファブリケーション(3)：3Dプリンタの可能性
9. デジタル・ファブリケーション(4)：3Dモデリング実習(1)
10. デジタル・ファブリケーション(5)：3Dモデリング実習(2)
11. 総合課題(1)：ブレインストーミング
12. 総合課題(2)：アイデア・ディベロップメント
13. 総合課題(3)：プロトタイピング
14. 最終発表会：プレゼンテーションと講評
15. 社会への公開：OpenTamabiサイトに作品データを登録

### 【履修上の注意事項】

制作のための材料費や交通費等は各自の実費とする。

### 【評価方法】

100点中、出席40点、意欲30点、制作30点

### 【テキスト】

### 【参考文献】

<http://opentamabi.tumblr.com/>

<http://www.facebook.com/OpenTamabi>

## PBL 44 iTamabi 衛星芸術用iPhoneアプリ開発

担当教員 久保田 晃弘 田所 淳

配当年次 全学年

単位区分 自由

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 1.0

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

- ・「openFrameworks」を使ったiPhone/iPadアプリの開発手法を学び、アプリケーションを制作してAppStoreから公開する。
- ・衛星APIを用いて、衛星からのデータを取得する方法とそのデータを用いた衛星アプリをデザインする。
- ・衛星の軌道情報から衛星の現在位置を算出することで、iPhoneのカメラやコンパスを組み合わせる簡単な衛星ARアプリをつくる。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：iPhoneアプリと衛星芸術プロジェクト
2	環境設定：iPhoneアプリ開発の概要と開発環境の設定
3	アプリケーションの開発方法：実機でアプリを動かす
4	openFrameworks入門：openFrameworksによるiOSプログラミング入門
5	iPhone衛星アプリ実践開発講座 (1)：人工衛星とは何か
6	iPhone衛星アプリ実践開発講座 (2)：衛星からのデータをどうやって得るのか
7	iPhone衛星アプリ実践開発講座 (3)：衛星データの特徴
8	iPhone衛星アプリ実践開発講座 (4)：衛星APIの使い方
9	iPhone衛星アプリ実践開発講座 (5)：衛星データを活用したアプリケーション
10	iPhone衛星アプリ実践開発講座 (6)：衛星の軌道情報
11	iPhone衛星アプリ実践開発講座 (7)：衛星ARアプリの作り方
12	iPhone衛星アプリ実践開発講座 (8)：ウェブサービスとの連携
13	iPhone衛星アプリ実践開発講座 (9)：オリジナルアプリのデザイン
14	最終講評会：作成したアプリの発表と講評
15	ドキュメンテーション：作成したアプリをドキュメントにまとめる

### 【履修上の注意事項】

- ・Macintosh および iPhone/iPod Touch/iPad の基本的な使用方法を習得し、衛星や宇宙にも強い興味や関心のあること。
- ・アプリ開発のためにはプログラミングが必要不可欠であるため、プログラミングやスクリプトの経験があること。

### 【評価方法】

- ・100点中、出席40点、意欲30点、制作30点

### 【テキスト】

<http://yoppa.org>, <http://artsat.jp> (衛星芸術プロジェクト公式ウェブページ),  
<http://tamabi.tv/app/> (tamabi.tvのアプリ紹介ページ)

### 【参考文献】

「Beyond Interaction-メディアアートのためのopenFrameworksプログラミング入門」田所 淳・比嘉 了・久保田 晃弘

## PBL -9 文化演出の現在 (展覧会)

担当教員 海老塚 耕一 上田 雄三

配当年次 2年・3年

単位区分 自由

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

準備事項

備考 定員：30名

### 【授業のねらい】

展覧会の構造を探ることにより、現代における展覧会の意味と様々な展覧会の未来について考察し、実際に自分達の展覧会を企画し実施していく。現場での実務、略歴、キャプション、設置の仕方、チラシ版下の作成、レセプションの構成等について学ぶ。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	展覧会の構造Ⅰ 展覧会の理念と基礎的構造 実践の紹介
2	展覧会の構造Ⅱ 受講生の視野、方向性を確認 各学生の作品でプレゼンテーション
3	展覧会の構造Ⅲ 現代における展覧会の意義 各学生の作品でプレゼンテーション
4	展覧会企画にむけてのディスカッションⅠ 各学生の作品でプレゼンテーション
5	展覧会企画にむけてのディスカッションⅡ 企画書の作成、タイトル
6	展覧会企画 チラシ、デザイン、プレスリリース作成
7	展覧会の構築Ⅰ プランニング・制作Ⅰ キャプション、ファイルシートの作成
8	展覧会の構築Ⅱ プランニング・制作Ⅱ 最終確認、版下出稿
9	展覧会の構築Ⅲ プランニング・制作Ⅲ 宣伝郵送、キャプション
10	展覧会の構築Ⅳ 展示構成の実践的プランニングⅠ 展示計画の決定
11	展覧会の構築Ⅴ 展示構成の実践的プランニングⅡ 展覧会開始 アーティスト紹介 レセプション
12	展覧会の構築Ⅵ 展覧会の実践 講評、反省会、記録データ
13	展覧会演習Ⅰ(全学オープン) 展覧会の実施 学外授業、銀座の画廊巡り
14	展覧会演習Ⅱ 展覧会の実施と総括 レポート提出
15	まとめ

### 【履修上の注意事項】

本講座は単に展覧会を実施したり、あるいは単に展覧会について学習することを目的とするものではない。理論・制作・実施といった様々な諸力が如何に「展覧会」というもの構成するのかということ、実践に基づきつつ考察することが主旨である。従って、展覧会についての理論的かつ実践的な関心と努力が、履修者には求められる。

### 【評価方法】

授業参加の態度と展覧会の成果を纏めた期末レポートによる。テーマ「展覧会の意義」

### 【テキスト】

必要に応じて講義中に指示する

### 【参考文献】

なし

## PBL -10 プレゼンテーション演習

担当教員 上田 雄三

配当年次 2年・3年・4年

単位区分 自由

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

準備事項

備考 定員：30名

### 【授業のねらい】

作品の制作において、実践のみで自足してしまう場合が多いが、作品を公に「発表する」ということは、単に作品をつくることだけでは不十分である。作品が公共性をもつに至る第一歩として、自らが作りだした作品の意義を他者に説明し、伝達することが肝要であり、それがすなわち「プレゼンテーション」という技術である。この科目では、プレゼンテーションの能力を養うことを主眼とし、その方法論を相互で発見することを目的とする。実践での社会で通用する実際の企画書やプレゼンテーションを行う。パソコンによる作成の指導を強化。

### 【授業の展開計画】

- |                  |  |  |
|------------------|--|--|
| 1 プレゼンテーションとは何か  | 情報の整理とアウトプット                               | メディアの確認、PC、自己紹介。   |
| 2 自分を記述することⅠ     | 各自の情報/収集/展開                                | 各学生の作品ファイルにてプレゼン。  |
| 3 自分を記述することⅡ     | 各自の情報/収集/展開                                | 各学生の作品ファイルにてプレゼン。  |
| 4 自分を記述することⅢ     | 各自の情報/収集/展開                                | 各学生の作品ファイルにてプレゼン。社会とアートの必然性について 企画書見本。                     |
| 5 プレゼンテーションの在り方Ⅰ | 3名以上のグループを作る。                              | 企画書の作成Ⅰ テーマを話し合う。各グループに分けて企画書Power Pointで作成。               |
| 6 プレゼンテーションの在り方Ⅱ | 企画書の作成Ⅱ                                    | メセナ協議会、美術財団、アートインレジデンスの申請の仕方。各グループの企画書を作成発表1、プリント提出。       |
| 7 プレゼンテーションの在り方Ⅲ | 各グループの企画書を作成発表2、                           | プリント提出。コンペ方式で行う。   |
| 8 ポートフォリオとは      | スタジオにて作品の撮影、三脚、ライティングの指導。                  | 情報の素材を収集する。各自の作品、カメラを持参。                                   |
| 9 ポートフォリオ制作Ⅰ     | A4ファイル、Word、PowerPoint、                    | ノートパソコン持参。自分のポートフォリオを作成Ⅰ                                   |
| 10 ポートフォリオ制作Ⅱ    | A4ファイル、Word、PowerPoint、                    | ノートパソコン持参。自分のポートフォリオを作成Ⅱ、iPhone、iPod Touchの作成。             |
| 11 ポートフォリオ制作Ⅲ    | A4ファイル、Word、PowerPoint、                    | ノートパソコン持参。自分のポートフォリオを作成Ⅲ、iPhone、iPod Touchの作成              |
| 12 プレゼンテーションⅠ    | プレゼンテーションの実践                               | プリント、USBにて提出。Power Pointにてプロジェクター発表Ⅰ                       |
| 13 プレゼンテーションⅡ    | プレゼンテーションの実践                               | プリント、USBにて提出。Power Pointにてプロジェクター発表Ⅱ                       |
| 14 プレゼンテーションⅢ    | 成果物の提出                                     | Word,PowerPoint出力、 iPhone、iPod Touch、USBにて提出。クリアファイルにても提出。 |
| 15 総括            | 銀座の画廊にて、コンペによって選ばれた1つのグループの企画展を発表し翌年度開催する。 |  |

### 【履修上の注意事項】

ノートパソコン、デジタルカメラ、Photoshop、Word、PowerPoint、KeyNoteのソフトウェアを持っている人が優先。  
メディアセンターのパソコンにてポートフォリオの制作授業を3回に分けて行う。

### 【評価方法】

平常出席点、レポート、企画書、ポートフォリオなどの成果物 USBにて提出

### 【テキスト】

授業内で指示

### 【参考文献】

特になし

## PBL -16 パッケージデザイン基礎

担当教員 山崎 茂

配当年次 2年・3年

単位区分 自由

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2.0

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

前期では、包む・保護する・運ぶ・魅せるなどのパッケージデザインの基本をケーススタディを通し理解した上で、それらをテーマにした演習、課題制作を行う。

後期は、前期に学んだ基礎を基に、ギフトパッケージをテーマにした課題制作を行い、パッケージデザインに対する発想力・構成員力・表現力の向上を目指す。

### 【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション：授業の主旨、前期授業日程説明、自己紹介
- 2 演習：課題1説明「包む・保護する」ケーススタディ1 パッケージデザインとは(1)「包む・保護する」
- 3 演習：制作(1) パッケージ基礎造形(アイデアスケッチ)
- 4 演習：制作(2) パッケージ基礎造形(立体制作)
- 5 演習：制作(3) パッケージ基礎造形(立体制作)
- 6 演習：課題2説明「魅せる」ケーススタディ2 パッケージデザインとは(2)「魅せる」
- 7 演習：制作(1) パッケージ基礎造形(アイデアスケッチ)
- 8 演習：制作(2) パッケージ基礎造形(立体制作)
- 9 演習：制作(3) パッケージ基礎造形(立体制作)
- 10 演習：講評 課題1、2 プレゼンテーション・講評
- 11 演習：課題3説明「運ぶ」ケーススタディ3 パッケージデザインとは(3)「運ぶ」
- 12 演習：制作(1) パッケージ基礎造形(アイデアスケッチ)
- 13 演習：制作(2) パッケージ基礎造形(立体制作)
- 14 演習：制作(3) パッケージ基礎造形(立体制作)
- 15 演習：講評 課題3 プレゼンテーション・講評
- 16 演習：課題4説明「ギフトパッケージ1」ケーススタディ4 ギフトパッケージとは(1) / 資料収集
- 17 演習：制作(1) コンセプト作成
- 18 演習：制作(2) アイデアスケッチ
- 19 演習：制作(3) アイデアスケッチ/デザイン案
- 20 演習：制作(4) パッケージ制作
- 21 演習：制作(5) パッケージ制作
- 22 演習：講評 課題4 プレゼンテーション・講評
- 23 演習：課題5説明「ギフトパッケージ2」ケーススタディ5 ギフトパッケージとは(2) / 資料収集
- 24 演習：制作(1) コンセプト作成
- 25 演習：制作(2) アイデアスケッチ
- 26 演習：制作(3) アイデアスケッチ/デザイン案
- 27 演習：中間プレゼン デザイン案の中間発表
- 28 演習：制作(4) パッケージ制作
- 29 演習：制作(5) パッケージ制作
- 30 演習：講評 課題5 プレゼンテーション・講評/総評

### 【履修上の注意事項】

対象は全学科の2,3年生とするが、実技演習のため履修人数に30名の制限を設ける。

### 【評価方法】

課題提出、プレゼンテーション等、通常の成果物、及び出席の総合評価で単位認定する。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献】

必要に応じて資料を配布する。

## PBL -18 環境ワークショップ演習

担当教員 端山 聡子

配当年次 1年・2年・3年・4年

単位区分 自由

準備事項

備考 定員40名 コンピュータ抽選

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

バナナ繊維の加工技術および環境問題を考えることを通して、バナナ繊維と環境をテーマとしたワークショップを企画し実施する。  
ワークショップの組み立てに学生が積極的に参画することで、企画・プレゼンテーション・コミュニケーション能力を鍛える。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 授業の進め方説明	16	ワークショップ実施計画発表1 発表
2	バナナに関する知識を集める 講義	17	ワークショップ実施計画発表2 発表
3	バナナに関するイマジネーションを共有する 講義と発表	18	ワークショップで伝達するための演習 講義と討議
4	ワークショップとはどのようなものか 講義	19	ワークショップで伝達するための演習 講義と討議
5	ワークショップの実践事例 講義	20	伝達方法の発表 発表
6	素材研究 バナナ繊維からの発想	21	ワークショップ案の完成 企画書の完成
7	素材研究 バナナ繊維を撚る	22	素材準備作業 ワークショップの準備
8	素材研究 バナナ繊維を編む	23	素材準備作業 ワークショップの準備
9	特別講義 講義 環境とワークショップ	24	素材準備作業 ワークショップの準備
10	環境について考えよう 講義と討議	25	素材準備作業 ワークショップの準備
11	ワークショップ案の作成 プラン立案	26	ワークショップの実施 ワークショップの準備
12	ワークショップ案の発表 プラン発表	27	ワークショップのまとめ 記録の作成
13	ワークショッププランに沿った素材研究 実習	28	ワークショップのまとめ 記録の作成
14	ワークショッププランに沿った素材研究 実習	29	ワークショップのまとめ 記録の作成
15	ワークショップ実施計画提出 検討	30	発表 報告書作成と反省会開催

### 【履修上の注意事項】

環境問題と芸術普及教育との関わりについて意欲的に学ぶ学生の参加を望みます。

### 【評価方法】

出席とワークショップの実施結果によって評価する。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献】

放送大学 博物館教育論

## PBL -19 サステナブルデザイン一村一品プロジェクト

担当教員 深津 裕子

配当年次 2年・3年・4年

単位区分 自由

準備事項

開講時期 通年

授業形態 実技・演習

単位数 2.0

備考 定員30名 コンピュータ抽選 デザイン系・工芸学科 2～4年生対象

### 【授業のねらい】

この授業では持続可能な社会をデザインするための試みとして一村一品プロジェクトを実施します。一村一品プロジェクトとは、ある地域の生物資源や工芸技術を有効利用した特徴あるプロダクトを企画・デザイン・制作し販売した利益を地域社会に還元するものです。受講生の自主的な行動力とマーケティング、コミュニケーション、そしてデザインの力を高めることをねらいとします。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス 持続可能なデザインをめざして	16	プロジェクト2 課題説明とグループ分け
2	世界に広げよう「一村一品」プロジェクト	17	地域文化と歴史に関する情報収集
3	ローカルコミュニティで文化を伝承する人1	18	地域の経済・社会・産業に関する情報収集
4	未利用繊維のサステナブルデザイン	19	地域の現状と特産品に関する情報収集
5	ローカルコミュニティで文化を伝承する人2	20	一村一品プロジェクトの提案
6	伝統的工芸技術のサステナブルデザイン	21	中間発表1とディスカッション
7	プロジェクト1 課題説明とグループ分け	22	サステナブルデザインの提案
8	地域文化と歴史に関する情報収集	23	サステナブルデザインの試作
9	地域の現状と特産品に関する情報収集	24	中間発表2とディスカッション
10	一村一品プロジェクトの提案	25	地域社会とのコミュニケーション
11	中間発表とディスカッション	26	中間発表3とディスカッション
12	サステナブルデザインの提案	27	地域社会とのコミュニケーション
13	試作品制作とプレゼンテーション準備	28	試作品の完成とプレゼンテーション準備
14	プロジェクト1 プレゼンテーション・講評	29	展示とアンケート調査
15	まとめ	30	プロジェクト3 プレゼンテーション・講評

### 【履修上の注意事項】

受講生はプロジェクトの進行過程や内容、講義などを各自メモすることにより、オリジナルノートを作成してください。

### 【評価方法】

プレゼンテーション、出席状況（欠席・遅刻・授業態度）などにより総合的に評価します。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献】

授業内で紹介します。